

牛群検定通信 No.195

～体細胞数をチェックしよう～

今年の9月は、例年になく雨の多い毎日でした。また、晴れたと思えば、とても蒸し暑いという気候が続き、乳牛の天敵である乳房炎が心配されます。乳房炎の指標となる体細胞数は季節変化することが知られており、そのピークは9月です。湿気と暑さにより細菌が繁殖しやすく、体力低下等の理由が背景となります。検定成績を使ってチェックしましょう。

1 乳房炎の検定牛を探す

検定成績表の2枚目の個体検定日成績を見てください。中央からやや右側に体細胞数の欄があります。その中に△や▲のマークを確認してください。マークのついたものが乳房炎の疑われる検定牛を示します。

△：283～1131千個

▲：1132千個以上

体細胞数は今月、前月、前々月と3カ月分が表示されています。3カ月分を見ることで急性なのか、慢性化しているか、治癒しているかなどを見ることが出来るようになっていきます。

2 出荷乳の品質

体細胞数は乳価に影響します。体細胞数が高くならないように衛生管理を徹底することが重要ですが、出荷乳の品質管理も重要です。検定成績表の体細胞数の欄には「高体細胞数影響率」という小さい欄があります。例えば、高体細胞数影響率に10と表示されていた場合、当該牛を出荷乳に合乳せずに廃棄すれば出荷乳の体細胞数を10%低下させることができることを示しています。高体細胞数影響率が高い牛は治療に専念することも重要な経営判断です。

3 乳房炎予防のための衛生管理

(1) 搾乳

- ・搾乳機器の洗浄（湯温、洗剤濃度）は、適正な衛生管理されているか
- ・前搾りと乳頭清拭を適正に行っているか
- ・ライナースリップが発生していないか、ライナーは適時交換しているか
- ・過搾乳していないか
- ・ポストディッピングではしっかりと乳頭全体を薬液に浸漬させているか
- ・乳房炎牛の搾乳を最後にしているか
- ・真空圧やパルセータは適切に管理されているか

(2) その他

- ・牛床は清潔に乾燥しているか →★湿気が多い雨天時は要注意
- ・サシバエの駆除は適切か
- ・暑熱対策、送風は適切か
- ・栄養管理は十分か
- ・乳房炎牛による乳は確実に廃棄されているか
- ・牛体が汚れていないか
- ・繁殖の悪化などにより、搾乳期間が延伸していないか

※地域の指導に従ってください。

（相原）